



三重中央だより

当院の理念(Principle) ● いのちの尊さを自覚し、病む人の身になって、安心で質の高い医療を行います。

テーマ

災害・救急！

三重中央

いざに備えて憂いなく

巻頭言

市民の安全安心のため、
今後も貴センターと手を携えてまいります

津市の休日夜間における救急医療体制は、市内の内科・外科系の2病院と整形外科1病院が輪番制で対応していますが、様々な事情で搬送先が決まらず、救急隊員が受入可能な病院を探して何度も照会することを余儀なくされる場合があります。救急医療を語る上で、この動き出さない救急車問題は、市長就任以来の私の大きな課題です。

多くの診療科を有する総合的な病院である三重中央医療センターは、地域医療支援病院として地域医療の確保と質の向上に取り組まれるとともに、急性期医療における中核病院として、津市の安全・安心なまちづくりに欠かせない存在となっています。とりわけ救急搬送においては、高度な医療を要する重篤な患者も貴センターが積極的に引き受けていただいておりますことや、津市消防本部と隣接する恵まれた立地条件もあいまって日頃の連携が緊密に図られおり、このことが救急患者のスムーズな搬送と救命率の向上にも繋がっているものと、ここに深く感謝申し上げます。

また、救急救命士の資格を持つ救急隊員が実務を行うために必要となる就業前病院実習においては、貴センターの多大なる御協力のもと、救急救命措置に関する医学知識や技術はもとより、御指導いただいた医師との顔

津市長
前 葉 泰 幸



の見える関係を築くことができています。このことは、救急業務を行ううえで大きな糧となるものと重ねて感謝申し上げます。

さて、東日本大震災の発生から3年半が経過し、以前にもまして市民の皆様の防災意識は高まっています。津市では、平成24年度と平成25年度の2カ年を災害対応力強化集中年間として、津市地域防災計画の徹底見直しや緊急避難先の確保、実効性のある津波対策などあらゆる防災対策を講じ、災害に強いまちづくりの推進に向け市民の皆様のご期待に応えるべく力を注いでまいりました。

津波浸水被害を受けにくい場所に位置する貴センターは、平成25年12月に三重県内の8つの災害医療支援病院のひとつに指定されました。万一の大規模災害時には、災害拠点病院をしっかりと支援していただける医療拠点となるものと期待しているところです。

津市の医療・防災施策を進める上で、貴センターが担う役割は極めて大きく、市民にとって無くてはならない存在であります。今後も引き続き、森本保院長をはじめとする貴センターの皆様としっかりと手を携え、市民の皆様が安心して暮らしていただけるよう取り組んでまいりたいと存じますので、より一層の御協力をお願い申し上げます。

最後に、貴センターの今後ますますの御発展と、皆様の御活躍を心よりお祈り申し上げます。

大震災に備える病院体制…病院完結から地域連携へ

1995年1月17日阪神・淡路大震災。その日、茫然と立ち尽くしながら、日本の医療人は大規模災害への対応の必要性に気付きました。その年5月「日本集団災害医学会」が発足し、翌年「災害時における初期救急医療体制の充実強化について」が厚生省から示されました。2001年厚生労働省は「防災業務計画」を出し、災害時医療の整備、マニュアルの作成等をさらに促し、今では馴染みのある言葉「DMAT」を正式に発足させたのが2005年です。2004年の中越地震もあり、医療現場で防災体制づくりが進められました。

災害医療の実力が試されたのは2011年3月11日東日本大震災。その日、大自然に不意打ちを食らい、日本の医療人は敢然と立ち向かいをはしましたが、愕然と崩れ落ちました。災害医療の拠点となるべき病院がなくなったのです。災害対応のマニュアルは整備され、訓練により自負にあふれ、覚悟もできていたのに、病院がなくなることはマニュアルにはありませんでした。被害を最少で免れた病院には傷病者が殺到しました。医療者は本能的に傷病者に献身的ですが、薬がない、包帯がない、水がない、食糧がない、電気がない（だから暖房もない）。

3月16日朝、三重中央医療センターの災害医療班として、雪の長野、新潟経由で東北へ向かいました。山形で、被災地ではガソリンが手に入らないので、戻る燃料がなければ現地に入るなどの情報を得ました。ガソリン確保に半日が費やされました。途上、花巻待機が釜石集合になり、17日午後遅く釜石到着。医療班は勝手に活動を開始できません。活動

場所は県の指示を受けるので、国立病院機構本部と岩手県庁の交渉が終わるのを夜まで待ちました。釜石地区で活動をお願いするが、どこかは現地で決めるとのこと。ガソリンが乏しく、携帯電話も不通の

中、18日朝から釜石保健所、現地災害対策本部を訪ね、最終的に地区医師会の指揮下に入りました。医療班としての活動開始は久居を発ってから3日目の午後でした。

災害医療は医師、看護師などの医療者だけでは成立しません。今までの災害医療マニュアルでは、想定外なことが起こった時、病院の外部とやかに調整していくかの検討が不十分でした。「食糧は3日分備蓄する」とマニュアルにはありましたが、津波に流されることは想定外でした。また、「3日分」は入院患者数により想定されたもので、当面帰宅できない職員の分、押し寄せる傷病者の分はありません。このような問題がたくさんあ

り、行政の方々と事前に対策を詰めておかなければいけません。三重県は昨年、災害時の医療体制の構築のために、保健所、市、地区医師会、病院、消防、警察などが普段から情報交換をするため、「地域災害医療対策会議」を発足させました。津市も前市長を先頭に災害時医療救護に関する対策に積極的に取り組んでみえます。時代は進化し、災害医療は病院が災害マニュアルを作成し対処するだけでは成立しないという共通認識ができました。災害では「自助、共助、公助」といいますが、こと災害医療に関しては傷病者の自助は無理、病院・役所だけでも無理、地域全体の関与と総合力が問われるのです。言ってみれば「域助」なのです。当院の大規模災害訓練には地区医師会、歯科医師会、薬剤師会、津保健所、津市職員の方々が参加してくださり、連携を確認することも訓練のテーマです。

ハザードマップによれば三重中央医療センターは津波の被害を受けません。三重中央医療センターは地域の期待に応えます。しかし、それは「域助」があって発揮できるものです。地域の皆様、関係機関の皆様との連携を大切にする所以です。

3度目はもう負けられない。いつの日にか襲ってくる災害も当然予想通りとして立ち向かい、もう、泣かない。



統括診療部長
地域医療連携室室長
津地域災害医療コーディネーター
霜坂 辰一



2011年3月18日釜石 三重中央医療センター医療班：手術室の明るい无影灯に比べ、ロウソクの灯はその時の医療の実力を暗示していました。



久居・一志地区医師会
津地域災害医療コーディネーター

奥野 利幸

東日本大震災から3年半が経過しました。テレビ報道にみる被災地は徐々に復興しているようですが、皆さんの記憶の中には、どれほど残っているのでしょうか？残念ながら、私の記憶の中では、少し薄れてきているように思います。人の記憶（私の記憶）は曖昧なものなので、それを補うた

るに医院の状態を書き込んで送信し、久居・一志地区医師会の建物に向かった。途中、一部倒壊した家屋をみながら、「みんな、怪我はしていないだろうか？薬手帳や必要な薬を持って、避難所に向かったのだろうか？救護所の場所を知っているだろうか？」などと考えながら歩いた。医師会では散乱したものの中から、パソコン・災害用無線などを探し出し、先に着いてみえた先生方と災害本部を立ち上げた。その後、救護所である三重中央医療センター前に向かった。

「備えあれば憂いなし！」

めに、時に、自分に置き換えて、地震災害のシミュレーションをしています。

午後10時、夕食後ゆっくりテレビを見ていたら、突然大きな揺れを感じた。テレビは倒れ、窓ガラスが割れ、辺りが真っ暗に……。近くにあったはずの携帯電話を何とか探し出した。すでに災害警報メールが届いている。震源地は、紀伊半島沖、マグニチュード8クラス、津波警報が発令されたようだ。私は、家族の安否を確認し、自分の医院の中に入ってみた。診療機器・薬剤は散乱し、とても診療が出来る状態ではない。そこで、医師会の災害時のメー

「天災は忘れたところにやってくる？」

久居・一志地区医師会では、東日本大震災後、病院前救護所開設の考えに基づき、三重中央医療センターの防災訓練に参加させていただいております。毎回、様々な問題点が浮き彫りになり、訓練の大切さを痛感させられています。まだまだ、備えは十分とは言えませんが、何とか地域の皆さんの救護・災害時中核病院となる三重中央医療センターの一助になればと考えています。

皆さんは、災害の備えはされてるのでしょうか？一度、震災時のシミュレーションをしてみたいかがですか？思わぬ不備が見つかるかもしれません。

未曾有の大規模災害が発生し津波が津市を襲った場合、津波の被害を受けにくい当院は津市の医療の拠点となるでしょう。かつてよりそのような自覚を持って、毎年9月に行われる大規模災害に備えた総合訓練には力を注いできました。当院が医療機関として社会的義務を果たすことができるよう、訓練の3ヶ月も前から準備委員会で検討を重ねています。実際の災害を思い描きながら、想定される事柄に対処する方法を一つ一つ検討しています。入院患者さんの安全確保、ライフラインの確保、飲料水・食糧の確保、薬剤や医療資源の確保、医療スタッフの確保、行政との連携、報道とプライバシーのバランスなど、様々な問題に対応してゆかなければなりません。

次々と搬入されるであろう負傷患者さんへの対応。これが訓練のメインです。毎日、何百人にも及ぶ患者さんが押しかけるでしょう。すり傷程度の軽症から緊急手術が必要な重症まで一斉に来院します。限られたスタッフ数で、全ての患者さんに満足のゆく医療はとうてい提供できません。重症をいち早く見極め、適切な処置を急ぎ、助かる命を一人でも多く。そこには当然ですが優先順位をつける必要がでてきます。それが「トリアージ」です。重症度

の高い患者さんから順に赤、黄、緑のタグをつけてゆきます。タグは数分以内につけられ、それぞれの処置エリアに搬送されます。この行程がスムーズに行かないと、たちまち病院の入り口は大混乱となります。ゆえに災害医療で最も重要な行程といえるでしょう。



循環器科
新谷 卓也

「大規模災害訓練 準備と心構え」

毎年訓練には看護学生さんに協力してもらって模擬患者さんを演じてもらいます。瓦礫に足を挟まれて多量出血している患者さん、頭部を打撲して意識を失っている患者さん、火災に巻き込まれ全身にやけどを負った患者さん……。次々と救急車で搬入されます。患者の身を案じて泣きわめくご家族もいます。迫真の演技に身が引き締まります。そんな中、陣痛が始まった妊婦さんが運ばれてきたりします。一人一人が尊い命、本来そこには順番などないはずですが。命に順番をつける、この非日常業務をいかに冷静にこなすかが、より多くの患者さんを救う鍵となるのでしょうか。



外科
信岡 祐

皆様もご存じのとおり、東海・東南海・南海地震が近いうちに起こると考えられています。当院としましては、その時どのような機能ができるか常に検討しています。当院は昨年、災害医療支援病院に県から指定され、新たな気持ちで取り

組んでいます。今後、災害拠点病院を目指すためにもDMATの編成が急がれます。現在、個人としてDMAT隊員に登録されているものが数人いますが、認定された病院としてのDMATチームは存在していません。

この最近よく耳にするDMATですが、どのようなものかご存じでしょうか？ DMATとは「災害急性期に活動できる機動性を持った トレーニングを受けた医療チーム」であり、災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Teamの頭文字をとっ

大規模災害に備えて ～病院 DMAT の編成を目指して～

てDMAT(ディーマット)と呼ばれています。医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの急性期(おおむね48時間以内)に機動性を持って行動する、専門的な訓練を受けた医療チームです。大規模災害ではたくさんの傷病者がでることが予想されます。一人でも多くの命を助けるために、県外よりのDMATチームなどにも協力いただいて、病院機能を維持、拡充させ、また病

院機能が充分でなくなった時には、被災地の外に傷病者を搬送する広域医療搬送など、機動性、専門性を生かした多岐にわたる医療的支援を行います。

当院のDMATを編成するにはDMAT研修をチームで受けなくてはなりません。当院も応募していますが、研修施設の定員に限りがあり、順番がなかなか回ってこないのが実情です。早急に参加し当院のDMATチームの編成を行いたいと考えております。

医療機関における災害備蓄品は、病院としての機能を維持する必要があることから、水、食料、燃料などの他に、入院患者さま、被災された患者さまを受け入れて治療するための医薬品、医療材料といったものを備蓄する必要があります。

当院のライフラインを含めた主な備蓄品と備蓄日数は、電気(非常用発電機)2日～8日分、水1日～2日分(地下水汲み上げ可能であれば継続使用可能)、液体酸素5日～8日分、合成空気4日～7日分、給食材料3日分(非常食含む)、医薬品16日分、医療材料12日分となっております。電気などのライフラインについては、災害時発生時の残量により備蓄日数が大きく異なりますし、医療材料については、形式的な備蓄在庫(実際に使用できない材料、期限切れの在庫など)ではなく、通常の医療活動とリンクした医療材料の備蓄日数となっております。

非常用発電機で、CT、X線TV、血管撮影装置、人工呼吸器、生化学検査機器など診療に必要な医療機器に電源を供給することができるようになっております。

以上が当該地が被災した場合で電力会社からの電力、上水道などの供給、燃料等の運搬が停止した場合に当院が備蓄する日数となります。

しかしながら、このような災害備蓄品が準備されていても、最も重要なことは災害時の初動体制が大切と

なってきます。なぜならば、災害の場所や規模によっては被害の程度が大きく異なるからです。例えば、燃料タンクは無事であっても途中の配管が大きく破損した場合、非常用発電機は1日と保たないことになります。

まずは各部門が初動チェックリストに基づいて、



企画課
濱口 正

災害に備えた体制整備 ～当院における災害時の備蓄品について～

被害の状況を迅速に把握し、病院の活動力を早期に評価することが重要となります。

評価の結果、自治体、医師会等との連携や関わり方が決定してくるものと思います。

このような体制整備のため、当院では毎年大規模災害対応訓練を実施しており、今年は9月4日(木)で、事前に何回もの委員会を開催し、色々なケースをシミュレーションすることで、災害に強い病院を目指しております。

災害時に医療機関としての機能を失わず、少しでも地域の皆様に貢献できるようこれからも職員一丸となって努力したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

三重中央医療センターの救急医療の現状

津市における急病・交通事故・一般負傷などによる救急搬送件数は、月に1000件強あります。二次救急病院として、当院を含め10の医療機関が機能しており、夜間・休日には輪番制をとって対応しています。当院への搬送数は、そのうちの300件前後であり、25～30%程度を担っています。

ところで、みなさんはどういう状況のときに救急車を呼ばなければ、と思うのでしょうか。目の前の人が突然胸が苦しいとって倒れた時、自転車に乗った通学途中の高校生が交通事故に遭遇したとき、などいろいろな状況が頭に浮かぶと思います。

実際に救急外来に搬送される患者さんの状態はといえば、いろいろです。擦過創や打撲・発熱・腹痛、というものから、心肺停止状態で救急隊によって心マッサージを受けながら搬送されるかたなど、その状態・重症度はさまざまです。

当院へ救急搬送された患者さんのうち、4割～5割程度が入院治療を受けられています。逆に言えば、半分の方は幸い軽症であったり、緊急性のないものということになります。検査などの結果をみるまで重症か軽症か判

断できないことも多く、また点滴などの処置によって改善することも多いですが。

さらに救急外来には、ご自分で来院される方も多いです。

救急要請があればすべて受け入れるのが理想ではあります。しかし、限られた人材・資材のなかで救急医療を行わざるを得ないのが実状です。担当医の手が離せないとき（受け持ち患者さんが急変したときや、直前に搬送された患者さんの処置中など）、救急要請があっても対応できず、他院への搬送をお願いせざるを得ないこともあります。また、受診されてもすぐ診察できず、お待ちいただくこともあります。

比較的軽症で緊急性が乏しいと思われる場合には、かかりつけ医、あるいは休日・夜間応急診療所にまずはご相談いただくようお願いいたします。

今後も津市の救急医療体制を維持し、さらに充実したものにしていくためにも、住民の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



救急救命診療部長・
心臓血管外科
佐藤 友昭

救急車の適正な利用を

平成25年中の本市における救急出動件数は、昨年より347件増の14,196件でした。救急出動は毎年増加の一途をたどっており、これまでの最多件数となりました。

本市では市民の生命を守るため、13台の救急車が日々昼夜を問わず活動していますが、そこには救急医療を担って頂いている医療機関の存在を決して忘れるわけにはいきません。

出動件数の増加に伴い、三重中央医療センターには昨年より271人増の3,472人の傷病者の受け入れをして頂いています。この数は市内救急病院の中でも圧倒的であり、救急隊から見ても最後の砦的存在となっており、深く感謝を申し上げます。

これら救急出動の中には軽症の方の搬送も多く、現状の医療資源にも限界があるため、真に病院での治療や救急車の使用を必要とされる方のために何らかの策を講じなければなりません。

そのため消防としましても救急車の適正利用等に関しては、機会ある度に訴えており、その一環とし

て民間の福祉タクシーや介護タクシーの利用を勧めています。これらの車両は、ストレッチャーや車椅子を載せたままで走行ができますので、寝たきりや高齢で身の周りのことが自分だけで対応しきれない方等には大変重宝がられています。また、これらを安全で安心に利用して頂くために、一定の要件を満たしたものを患者等搬送事業者として消防認定しています。その他にも救急車適正利用に係る啓発用ポスターの掲載だけでなく、救命講習会、商業施設等での防火防災イベントから自治会の訓練指導等、あらゆる消防と市民が交流する場で理解を得られるよう救急車の適正利用について呼びかけています。

特効薬となる方法は今のところ見あたりませんが、消防としてできることを地道に継続していきたいと考えています。どうぞ今後とも三重中央医療センターにおかれましては、本市を代表する救急医療チームのパートナーとして市民の安全・安心を守り続けていただくことを切に願っております。



津市消防本部救急課長
東海 千秋

赴任された小児科の先生方

7月1日より三重中央医療センター小児科に赴任いたしました栗原康輔と申します。出身は神奈川県で2011年に三重大学を卒業しました。四日市社会保険病院（現、四日市羽津医療センター）で初期研修終了後、前任の三重県立総合医療センターで小児科全般を経験し、診療させていただきました。趣味は中学校の時から続けている楽器（チューバ）を演奏することで、特技はバールーンアートです（動物・花・キャラクターなど作れます）。季節のイベントなどで皆様にご披露できる機会があればと思っております。当院のNICU（新生児集中治療室）は三重県の新生児救急医療の中心的な役割を担っており、そのスタッフの一員として三重県の小児医療に微力ながら貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



小児科
栗原 康輔



小児科
山下 敦士

7月から赴任してきました小児科の山下敦士です。これまで鈴鹿中央総合病院で初期研修を終え、三重県立総合医療センター、国立病院機構三重病院にて小児科医として勤務させていただいてきました。そして、当病院では新生児医療について勉強させていただくことになりました。当病院が総合周産期母子医療センターに指定されていることもあり、早く生まれたり、小さく生まれたりして長期入院を余儀なくされる新生児が数多く入院されてきます。まだまだ未熟ではありますが、生まれてくるこどもたちの笑顔のために少しでも力になれるよう日々努力していきたいと思っております。短い期間ではありますが、小児科の先生方をはじめ、他科の先生方、スタッフの方々、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

2014年7月1日より三重中央医療センター小児科に赴任させていただきました中藤 大輔と申します。出身地は岡山県倉敷市で、卒業大学は三重大学です。大学卒業後は倉敷中央病院、伊勢赤十字病院小児科勤務を経て当院に赴任となりました。

学生時代に三重中央医療センターで小児科実習を行い、小児科、新生児科の魅力にふれ、小児科医を目指すようになったので、初心に戻って頑張ろうと思っております。

三重中央医療センターは平成15年4月より三重県総合周産期母子医療センターに指定され、三重県内の新生児医療の拠点となっています。そのため三重県の他の病院と比べて、合併症や週数が早いなど難しい症例が多いとは思いますが、生まれてきた子供たちにより良い医療を提供できるよう日々研鑽していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



小児科
中藤 大輔

青春グラフィティ



疾風怒濤篇

産婦人科 武田 真由子

平成25年4月に三重大学産婦人科入局後、本年6月より異動してまいりました武田真由子と申します。私は三重県名張市出身で、平成23年に川崎医科大学医学部を卒業いたしました。大学在学中は医学部硬式庭球部に所属し、学生時代練習を熱心に後輩と先輩と協力しておりました。大学時代には岡山県内8位となりましたが、現在は趣味でサークルをしております。現在の産婦人科を頑張れるのは自分の忍耐力と努力の行動が身に染みているからと考えられます。今後も頑張っていきますので、よろしくお願いします。

私が産婦人科に興味を持ったのは姉弟4人目の出産の時でした。父が分娩管理中一緒に管理しないかと急に誘われ、何もわからず陣痛室に入りました。するとそこには苦しむ母が目の前にいました。訳もわからず私は母を支えました。数時間後に分娩体制から児頭確保までの対応をし始めたため、私も一緒に手伝いました。そのとき父から色々教わりました。どきどきで頭が真っ白になる寸前でしたが、突然児頭が降り、大きな鳴き声が聞こえてきました。この時新たな生命の誕生という言葉が頭に出てきました。

この時大きな感動を得た驚きと喜びの渦に巻き込まれました。父の大きな存在とやりがいのある仕事だと考え、私は産婦人科医になって父と全ての女性を救いたいと思いました。そして医学の勉強に励むことを決意致しました。しかし、頭が悪くダウントアウンの浜田さんが行かれていた不良学校日生学園に入学し、高校卒業後見事1年間浪人しました。

その1年後私は1%の確立で川崎医科大学の推薦に見事合格し、無事医学生になれました。それ以来、私が初めて日生から医学生になったという奇跡を起こし、現在は理系、文系と勉学を発展させるというミラクルなイベントを起こしてしまいました。

医者には賢いだけじゃやっていけないと思っております。まだ、夢は捨てたもんじゃありません。「いつ医者になるの、今でしょ！」です。

初期研修は鈴鹿中央総合病院で救急を中心に内科・外科を学びました。3年目は三重大学で産科婦人科を1年2ヶ月勉強させていただきました。この医師として働いた3年間のおかげで元気に仕事を励んでおります。母体と新生児の管理をしている三重中央医療センターへ就職しています。現在の仕事は非常に大変なものです。尊敬できる上級の先生方、助産師さんのおかげで充実した日々を送っております。医師の質をさらに向上し、今後異動してくる後輩の指導が出来る基礎教育が出来るように頑張りたいと思います。

命に向き合う専門職なので職員の方々と始め、県内にある地域の方々、国立病院機構の施設の皆様とともに医療に貢献できるよう努力致しますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

輝くメディカルスタッフたち

医師、看護師以外でも、多くの専門性を持ったスタッフが当院院内で活動しています。その人と仕事にスポットを当てて紹介します。

管理栄養士 丹羽 正人

“〇〇の秋”……秋になると「食欲」「スポーツ」「読書」「感謝」など様々な言葉がこの〇〇を埋めてくれます。初秋は、自分自身の生活習慣を見直す良い季節かもしれません。

“食欲の秋”秋刀魚、松茸、柿などは旬の食材です。他にも、ポピュラーな食材である小松菜は秋から冬にかけての旬の野菜であり、タンパク質と一緒に摂ることでカルシウムの吸収率を高め、油と一緒に摂ることでビタミンやミネラルの吸収率を高めます。栄養素にも仲間が必要であるということです。

“スポーツの秋”毎日身体を動かしたいと思うほど、私は運動好きです。専門種目は、硬式野球とラグビーになります。当院では、多職種と交流を深めるためにソフトボールやバスケットボールなどを行い、共に身体を動かす仲間

づくりも大切にしています。

スポーツは、コミュニケーションを図る良き場所にもなり、結果としてより質の高いチーム医療へ繋がっていくと日々実感しています。

さて、これまでの病院勤務の管理栄養士は栄養指導、献立作成、発注、衛生管理などが主な業務内容でした。さらに近年はNST、褥瘡ケア、心臓リハビリテーション、緩和ケアなどチーム医療を担う一員としても活動しているなか、各病態に応じたより質の高い栄養管理を行うために、当院では管理栄養士を各病棟に配置し、患者様と直接関われる機会を大切にしています。今後は、管理栄養士として専門性を活かした医療が提供出来るよう、真摯に日々の業務に取り組んで参ります。



シリーズ 医療用語の 基礎知識 5

病院職員が何気なく使用している用語で、普通にはあまり馴染みがない医療用語を分かりやすく解説します。

救急病院



病院は結構あるはずなのに、夜間や休日に病院を探すのに困った経験をした方はいませんか？今回は1次、2次、3次からなる救急病院について簡単に説明させていただきます。

1次救急病院では、かぜによる発熱や簡単なケガなど、比較的軽傷で入院や手術を伴わない医療を担当しており、夜間・休日応急診療所などがこれにあたります。2次救急病院では、入院や手術を必要とするような症状への対応を担当しており、いくつかの病院が当番日を決めて順番に担当する「輪番制」とをとっている地域が多いです。当院もこの2次輪番の中に入っています。3次救急病院では、命にかかわるような重篤な疾患や複数の診療科にまたがる治療が必要な症状に対応しています。いわゆる救命救急センターと呼ばれる施設などがこれに当たります。

このように救急病院は、基本的に3つの階層に役割が分担されていますが、ピンっと線引きされている訳ではありません。例えば当院では、命にかかわる脳疾患、心疾患などに対応可能なため、重症の脳卒中や心疾患の患者様が他の2次病院から当院へ搬送されることも度々あり、2次と3次の中間、いわゆる2.5次の役割を果たしています。

1次、2次、3次の各病院間の連絡体制は密になっており、重症と診断された場合は1次から2次へ、2次から2次・3次へ患者様は移ることとなります。2次・3次救急病院では重症患者様にそなえて、スタッフや部屋を予め準備していますが、そこに1次の症状の患者様が集中すると重症患者様に対応できなくなる危険性があります。また、当番日以外では2次救急病院でも、医師の数などが救急体制になっていません。このような理由で、「まずは1次の病院へ、あるいは本日の当番病院へお願いします」とお断りするケースが出てきてしまうのです。もしも夜間や休日に体調を崩した場合、まずはかかりつけ病院・診療所に相談。どこに行けば良いのか分からない時は、「救急医療情報センター」に電話をすると、その症状でその時間に対応できる病院を教えてください。覚えておいてください。（医事 伊藤啓之）

「出前！ 市民公開講座」開催しました

第9回

ふれあい・思いやり いきいきサロン

日時：6月29日（日）

講演：「脳梗塞の予防と治療まで」脳神経外科 種村 浩医師

主催：雲出地区民生児童委員協議会・雲出市民センター

99名の方にご参加いただき脳梗塞予防への関心が伺えました。



第10回

イオン津南ショッピングセンター サンバレー

日時：6月30日（月）

講演：「腹腔鏡手術とは？ 胃がん・大腸がんもこんな小さな傷で?」外科 信岡 祐医師

「先生の話聞いてがん検診に行こうと思います」と
医学の進歩への関心と、健康管理の重要性をご理解頂いた
ようでした。



第11回

イオン津南ショッピングセンター サンバレー

日時：7月4日（金）

講演：「知れば防げる！熱中症」内科 奥田 昌也医師

蒸し暑い日々が続きます。皆さん、くれぐれもご注意
ください。



第12回

いきいき健康講座

日時：7月9日（水）

講演：「物忘れがきになったら」神経内科 北川 長生医師

主催：津市久居老人福祉センター

会場の椅子がなくなるくらいたくさんの方が聴きに来られ
ました。



第13回

上垣内きずな会

日時：7月23日（水）

講演：「転ばぬ先のお部屋チェック」

整形外科病棟 東 千尋副看護師長

主催：きずな会の親睦懇談会

とにかく転倒が怖い！靴下にも気をつけるなどのご感動
をいただき、日常生活に活かしていただけたと思います。



第14回

イオン津南ショッピングセンター サンバレー

日時：7月28日（月）

講演：「今日から安心！～尿漏れについて～」

外科病棟 瀬上 晶子看護師長

なかなか人には聞けない尿漏れですが、日頃の悩みを解消して
いただけたようです。最後はみんなで骨盤底筋体操を行いました。



入場
無料

市民公開講座

三重中央医療センター 地域医療研修センター

開催

13:00～ 『動悸 ほっといちゃダメですよ！』

循環器科 新谷卓也

14:00～ 『足のむくみが気になる方へ』

循環器科 田中淳子

15:00～ 『1km 歩けますか？』

心臓血管外科 佐藤友昭

2014
11.1 (Sat)

病気を知り 予防し 生活するための

文化祭

11:00～16:00

同時開催

ブース

血圧が気になる方にも安心！ カフェインレスコーヒー
by スターバックスコーヒー
久居の街はこんなにも元気！ 院内マルシェ
by 久居げんき会
メタボでもおいしい物を！ カロリー・オフ・フード
by Cafe Sanche
等、盛り沢山用意しております。

皆様のご参加を
お待ちしております。

写真提供：彩の丘クリニック

独立行政法人 国立病院機構 三重中央医療センター

出前！市民公開講座のお知らせ

9月25日(木) イオン津南ショッピングセンター サンバレー1F サンバレーホール (15時～16時)

いのちにかかわる肺の病気

講演：呼吸器科 藤本 源

9月27日(土) アスト津 【入場無料】

(12時30分～16時)

がんに関する市民公開講座

生活習慣と肝臓がん

講演：肝臓・消化器科医長 竹内 圭介
外科 がん診療部長 横井 一
管理栄養士 山田 裕昭

10月29日(水) イオン津南ショッピングセンター サンバレー1F サンバレーホール (15時～16時)

脱腸をそのままにしていますか？
～そけいヘルニアについて～

講演：外科 草深 智樹

11月26日(木) イオン津南ショッピングセンター サンバレー1Fサンバレーホール (15時～16時)

簡単にできるリラクゼーション

講演：臨床心理士 増井 理恵

「クローバー友の会」

会 員 募 集

「クローバー友の会」は地域の皆様と病院が、様々な病気・医療の学習を通して理解を深め合う会として発足しました。賛同いただける方はぜひ会員登録をお願いいたします。登録は無料です。会員には当院から健康に関する様々な情報をお届けします。受付でお声かけください。登録と同時に会員証をお渡しいたします。

記入いただいた個人情報は本会の業務以外には使用せず、安全かつ適切に管理いたします。

三重中央医療センター 地域医療連携室

国立病院機構
三重中央医療センター
クローバー友の会事務局

〒514-1101 三重県津市久居明神町2158-5
TEL. 059-259-1211 内
地域医療連携室

国立病院機構
三重中央医療センター クローバー友の会

会員にご登録いただきありがとうございます。
講演会に参加いただくことに1スタンプ押印いたします。
(スタンプ数による特典は別紙公表いたします。特典は変わることがあります。)

■会員様
住所 _____
氏名 _____
電話 _____

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20

編 集 後 記

秋空を見渡し、心地よい風を感じる季節となりました。

今回のテーマは災害・救急です。東日本大震災から3年半が経過いたしました。日々の生活から薄れゆく震災時の驚きや恐怖・不安・・・決して忘れてはいけないと思います。

私たちはこの経験を活かし、迅速に対応できるよう関係機関との連携を密にし頑張つてまいります。

(山)

発行所

三重中央医療センター

院長 森 本 保

三重県津市久居明神町2158番地5
TEL. 059-259-1211
<http://www.hosp.go.jp/~nmch>

●●● 三重中央医療センター連携医療機関紹介 ●●●●●●●

金 丸 産 婦 人 科

ホームページアドレス : <http://kanamaru.webmedipr.jp>



当院は平成8年に入院を持たないビル診の形で開業し、18年になります。私は研修医のころから約6年間、国立津病院（三重中央医療センターの前身）に勤務していたこともあり、常日頃から紹介先病院として大変お世話になっています。津病院時代にお世話させていただいた患者さんが検診に見えたり、取り上げた赤ちゃんが成長して妊婦さんとなって来られたり嬉しいことも多々あります。入院をもたないため妊婦さんの急変には対応

できず、いつも急な紹介にも快く対応していただき感謝しています。

当院は乳がん検診にも力を入れていますので、子宮と乳腺の検診が同時にできる点で、津市の市民検診などで利用していただくかたも多く、当然「ひっかかった」患者さんは紹介させていただくことになります。婦人科だけでなく外科の先生方にも大変お世話になっています。

これからも子宮・乳腺の一次検診や思春期・不妊の初期治療・更年期などの診療を中心に努力していきたいと考えています。

院 長：金丸 恵子
住 所：〒514-0062 津市観音寺町799-7
TTCビル1F（津商業高校前）
診 療：午前 9：00～12：30（月曜～土曜）
午後 3：00～6：30（月、火、水、金）
2：00～5：00（土曜）
完全予約制 ☎059-229-5722
休 診：日曜、祝日、木曜午後

駒 田 医 院



当院は津市の北西部のはずれに位置し関町、亀山市と隣接しています。従って患者さんは津市と関町を含む亀山市からの来院も多く、その比率は五分五分くらいとなっています。当院の開設は明治25年（1892年）で現在の院長は4代目ですが今年5月から5代目が戻ってきて2診体制で診療を行っています。3代目も高齢ですがまだまだ現役で医院に出て医療事務などを手伝っています。標榜科は内科、小児科、消化器内科、リハビリテーション科で消化管内視鏡、超音波診断装置、干渉波治療器、ウォーターベッドなど完備していますが田舎の医院ですので外科処置のほか、眼科、耳鼻科、皮膚科、泌尿器科などのプライマリーケアも行っています。特色としては、当院は公共交通機関のない不便な地域にありますので昔から往診・訪問診療など在宅医療に力を入れており、午前は外来診療、午後は往

診・訪問診療に当て、夜間はまた外来診療という診療時間のパターンは開設以来変更がありません。現在は在宅支援診療所として24時間対応しており、往診の範囲は芸濃町内のほか高野尾町、安濃町、関町、亀山市内、亀山市加太と広範囲にわたっていますが、5代目の若い力も味方に得てフットワークの良さを生かして精力的に在宅診療を行っています。外来診療では明るく笑顔の絶えない診療所づくりをモットーに診察を終わるとき、医院を出るときには患者さんに笑って帰っていただけるよう心がけています。三重中央医療センターは高速を使えば当院からの交通のアクセスもいいので多くの患者さんが紹介を希望されます。これからも連携医療機関としてよろしくご指導をお願いいたします。

院 長：駒田 敏之
医 師：駒田 雄一、駒田 慶一
診療科目：内科、小児科、消化器内科、リハビリテーション科
住 所：〒514-2202 津市芸濃町林190-2
電 話：059-265-2016 FAX：059-265-2278
休 診 日：日曜、祝祭日、木曜午後、土曜午後

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9：00～12：00	○	○	○	○	○	○	○
14：00～18：00	○	○	○	×	○	×	×
19：00～20：30	○	○	○	×	○	×	×

※ 14：00～18：00 は往診・訪問診療

二神クリニック



当院は、年末、年始、5月の連休、及び院長急用の日を除き日曜、祝日を問わず、年中開院しています。休診日は木曜午後と土曜午後です。スタッフは事務2名、看護師2名が、交替で勤務しています。

診療科目は内科です。

院長は、最近では野菜作りに力を入れています。キュウリ作りと麻雀の名人です。事務の赤塚さんは、キュウリのキュウちゃん漬の名人です。また事務の三方

さんは家具や椅子などの組み立ての名人です。看護師の小堀さんは、ギターの名人で、歌も歌い、歌手を目指しています。また、看護師の横山さんは雨降らしの名人です。子供の行事の時にはいつも雨を降らします。

皆で仲良く診療に協力してくれています。



院長：二神 康夫
住所：〒514-2221 津市高野尾町4956-27
電話：059-230-2221 FAX：059-230-2223
診療科目：内科、循環器科

	月	火	水	木	金	土	日	祝
午前9時～12時	○	○	○	○	○	○	○	○
午後4時～7時	○	○	○	×	○	×	○	○

日曜日・祝日診療を行っています。

津整形外科医院

ホームページ：<http://www.tsuseikei.com/>



当院は津駅西口から車で5分の所に前院長の山際繁機が32年前に開院いただきましたが、山際得益に代替わりいたしました事に伴い平成26年2月1日に全面リニューアルオープンいたしました。

前院長の時代より、手術や精査が必要な患者様

には必要に応じて、連携医療機関である三重中央医療センターに紹介させていただき、ご対応いただいております。平素より三重中央医療センターの先生方には大変お世話になっており感謝しております。

地域の皆さまに信頼される整形外科医院を目指し、微力ではございますが努力いたしますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

院長：山際 得益
住所：〒514-0062 津市観音寺町445-13
電話：059-228-9100 FAX：059-223-2921

診療時間	月	火	水	木	金	土	日/祝
AM 9:00～12:10	○	○	○	/	○	○	/
PM 3:00～6:40	○	○	○	/	○	/	/



外 来 診 療 担 当 表

平成26年 9 月 1 日現在

診療科名等		月	火	水	木	金	
初診内科 (初診・予約外) *初診及び紹介患者様は、総合内科で 診察いたします。	1 診	井端 英憲【呼】	大本 恭裕【呼】	北村 政美【循】	田中 剛史【糖】	川崎 敦【循】	
	2 診	竹内 圭介【消】	中久木 哲也【循】	藤本 源【呼】	田中 淳子【循】	後藤 浩之【糖】	
	3 診	新谷 卓也【循】	子日 克宣【消】	十時 利明【消】	渡邊 典子【消】	亀井 昭【消】	
	4 診	中谷 仁【循】	奥田 昌也【糖】	田口 由紀子【消】	岡野 智仁【呼】	西井 洋一【呼】	
	10 診		吉川 京子【消】				
再診内科 (予約のみ)	呼吸器科	5 診			井端 英憲(午後再診)		
	循環器科	5 診	田中 淳子	川崎 敦	新谷 宇一郎	中久木 哲也(午前再診)	北村 政美
	呼吸器科	6 診	藤本 源	井端 英憲	井端 英憲	大本 恭裕	大本 恭裕
	消化器科	7 診	子日 克宣	亀井 昭	渡邊 典子	十時 利明	竹内 圭介
	内 科	8 診	中久木 哲也【循】	新谷 卓也【循】	後藤 浩之【糖】	田口 由紀子【消】	中谷 仁【循】
		9 診	後藤 浩之【糖】	田中 剛史【糖】	田中 剛史【糖】	田中(崇)【糖】	田中 剛史【糖】
		10 診			西井 洋一【呼】	奥田 昌也【糖】	岡野 智仁【呼】
整形1診			加藤 裕也【消】				
神経内科	1 診	北川 長生	梶川 博之(予約のみ)	北川 長生	梶川 博之	北川 長生(予約のみ)	
	2 診	吉丸 公子	北川 長生(予約のみ)	梶川 博之	北川 長生	吉丸 公子	
小児科	午 前	1 診	井戸 正流	井戸 正流	田中 滋己	田中 滋己	
		2 診	*NICUフォロー	*NICUフォロー	発達外来	*NICUフォロー	
		3 診		田中 滋己	山本 初実(予約)	井戸 正流	
		4 診	発達外来		発達外来		
	午 後	1 診	田中 滋己(予約)	乳児健診			予防接種
		2 診	*NICUフォロー	2週間・1ヶ月健診	発達外来	*NICUフォロー	
		3 診	NICUフォロー		山本 初実(予約)	NICUフォロー	(NICUフォロー)
外 科	1 診	横井 一	谷川 寛自	横井 一	信岡 祐	谷川 寛自	
	2 診	草深 智樹		武内 泰司郎			
整形外科 (予約・紹介のみ)	1 診	田中 雅		田中 雅			
	2 診	長倉 剛	*浅沼 由美子(休診中)	小寺 秀樹	*浅沼 由美子(休診中)	長倉 剛	
	3 診	新谷 健		新谷 健		小寺 秀樹	
脳神経外科	1 診	霜坂 辰一	石田 藤麿	霜坂 辰一	種村 浩	石田 藤麿	
	2 診		種村 浩(初診)		芝 真人	霜坂 辰一(予約のみ)	
脊椎・脊髄外科			*水野 正喜 *診療時間は10：00～14：00までとなります。				
呼吸器外科			安達 勝利		樽川 智人	安達 勝利	
心血管外科		森本 保		佐藤 友昭	ペースメーカーチェック	日置 巖雄	
皮膚科(*予約・紹介のみ)		中西 朝子		中西 朝子	三重大学医師	中西 朝子	
泌尿器科 *水曜日の初診及び再来初診の受付時間は 8：30～10：00までとなります。		1 診	加藤 雅史	*加藤 雅史(初診)	加藤 雅史	加藤 雅史(初診)	
		2 診	岩本 陽一(初診)	岩本 陽一	岩本 陽一(初診)	岩本 陽一	
産科・婦人科	午前	1 診(初診)	前川 有香	日下 秀人	前田 眞	吉村 公一	澤木 泰仁
		2 診(婦人科再診)	前田 眞	前田 佳紀	吉村 公一	前田 佳紀	日下 秀人
		3 診(産科再診)	武田 真由子	道端 肇	前川 有香	武田 真由子	道端 肇
		4 診(助産師外来)	毎日、完全予約制(担当は交代制)				
	午後	1 診(産科再診)	前川 有香	日下 秀人	前川 有香	前田 佳紀	澤木 泰仁
		2 診(婦人科再診)	澤木 泰仁	前田 佳紀	吉村 公一	吉村 公一	日下 秀人
		3 診	*助産師外来	産後一ヶ月健診	*助産師外来	*助産師外来	*助産師外来
眼科(予約・紹介のみ) *水曜日の受付時間は8：30～10：30までとなります。		久瀬 真奈美		久瀬 真奈美	久瀬 真奈美	久瀬 真奈美	
耳鼻咽喉科	午前(初診)			*伊藤 由紀子	*伊藤 由紀子		
	午前(予約のみ)		伊藤 由紀子			伊藤 由紀子	
	午後(予約のみ)	伊藤 由紀子	中耳外来		中耳外来		
放射線科(7ブロック)		奥田 康之	奥田 康之	奥田 康之	奥田 康之	奥田 康之	
リハビリテーション科		小寺 秀樹	田中 雅	長倉 剛	長倉 剛	新谷 健	
歯科・歯科口腔外科		柳瀬 成章	柳瀬 成章	*柳瀬 成章	柳瀬 成章	柳瀬 成章(予約のみ)	
看護外来(予約)		看護外来 (第1月曜日 透析予防外来)	看護外来 (第3火曜日 透析予防外来)	糖尿病外来	ストーマ外来	フットケア外来	

*初診及び予約のない再診の方の受付時間は8:30～11:00までです。 *医師の人事異動・出張等により臨時に代診(休診)となる場合があります。
*当院のような急性期病院は、病棟入院患者様の処置、手術、検査、回診等があり、外来診療に制限を設けなければならない診療科もあることを御理解ください。

不整脈専門外来	肝炎外来	いびき・無呼吸検査	タバコ障害・COPD精査	ものわずれ外来	乳児健診	予防接種	NICUフォロー
月・火曜日 午前診療	月曜日 午前診療	月・火曜日 午前診療	月・火・水・木・金 午前診療	月・金曜日	火曜日 午後診療	金曜日 午後診療	月・火・木曜日 午前診療
循環器科(新谷)	消化器科(竹内)	呼吸器科	呼吸器科	神経内科(吉丸)	小児科		小児科(益野)
未破裂脳動脈瘤 専門外来	脊椎・脊髄外科専門	肺癌・良性肺腫瘍・ 気胸・縦隔腫瘍・膿胸	中耳外来 (予約)	ブレママ外来	おっぱい外来 (予約)	発達外来	
金曜日 午後診療(要予約)	火曜日(10時～14時) (要予約・紹介)	火・木・金 午前診療	火・木曜日 午後診療	火・木・金曜日 午前診療	月・火・木曜日 午後診療	月・水・木曜日 診療	
脳神経外科(石田)	脊椎・脊髄外科(水野)	呼吸器外科	耳鼻咽喉科(伊藤)	産科・婦人科		小児科(山川)	